

ぎのわん地域づくり塾の様子をお伝えします

NEWS LETTER Vol. 1



ぎのわん地域づくり塾

令和元年度
- 第4期 -

主催：宜野湾市／宜野湾市教育委員会／宜野湾市社会福祉協議会
共催：沖縄国際大学／琉球大学 運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく

第1回 足元の資源を生かした「地域経営」～浦添市港川自治会の取り組みに学ぶ～

日時：2019年7月6日（土）13:00-17:00

参加者：73名

講師：櫻井 常矢 氏（高崎経済大学）

ゲスト：銘苅 全郎 氏（浦添市港川自治会長） 鹿谷 麻夕 氏（しかたに自然案内代表）

場所：宜野湾市中央公民館 集会場



第1回講座は、ゲストに浦添市港川自治会の銘苅全郎氏、しかたに自然案内の鹿谷麻夕氏をお招きしました。講座の前半では港川自治会の取り組みと、自治会と連携して行われている里浜の保全活動の取組みをご報告いただきました。後半は櫻井常矢教授を交えて、これからの地域経営とコーディネーターの役割について考えました。

自治会の枠にとらわれない地域づくり

【銘苅会長】

里浜活動は地域全体の居場所づくりのためにやってきた。里浜活動を軸に学校連携が始まり、地域にとっても子どもたちが身近になった。核家族化、都市化による自治会離れに対応するためには、自治会の枠にとらわれない地域づくりが必要となる。地域を知らない人とかかわることができる学校連携や、公民館を拠点とした世代間交流を進めている。自治会だけでできなければ、専門家に力を借りればよい。

自治会と連携することで持続的な活動が可能

【鹿谷氏】

銘苅会長からカーミーの海の価値を教えてくださいといわれた。まとまった面積の自然海岸が残っているのはすごい価値がある。自治会が中心となり、学校と連携して環境学習をやってきた。地域の自然を残すのは、専門家ではなく、地域の人。どう活用し、どこを残すのか、判断基準を持ってほしい。自治会がつなぎ役となることで、継続的な活動ができている。

次回（第2回）の講座は・・・

内容：地域づくり実践の現場から学ぶ
嘉数区の地域課題と実践を知る

日時：8月3日（土） 9:30～15:30

場所：嘉数小学校地域連携室

講師：嘉数区自治会長 伊波 稔 氏

学校地域コーディネーター 新垣 真弓 氏

※台風の際はホームページをご確認ください



ぎのわん地域づくり塾

令和元年度
- 第4期 -

主催：宜野湾市／宜野湾市教育委員会／宜野湾市社会福祉協議会
共催：沖縄国際大学／琉球大学 運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく

地域コーディネーター養成講座 2019.7.6(日) 13:00~17:00
ぎのわん地域づくり塾 2019 公開講座
足元の資源を活かした「地域経営」

座談会 これからの地域経営とコーディネーターの役割

Q 子ども達の意見はどのように取り入れていきますか？

- 円タクなどでバス停の場所を改善してもらった
- ゴミの削減に力を入れている
- ハルコガで子どもが山を歩けるようになった
- カーニバルの木とスターは回収
- カーニバルは巻きで巻く
- カーニバルをどう見せるか

子ども達に声をかけている

Q 子ども達の意見はどのように取り入れていきますか？

- 円タクなどでバス停の場所を改善してもらった
- ゴミの削減に力を入れている
- ハルコガで子どもが山を歩けるようになった
- カーニバルの木とスターは回収
- カーニバルは巻きで巻く
- カーニバルをどう見せるか

コーディネーターの役割

- 自治会が行政の窓口になる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

Q 自治会が行政の窓口になる

- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる
- 自治会が区長と交渉できる

▲続いて櫻井教授を交えて、ディスカッションが行われた。

港川自治会の取り組みから見えてきたもの

【全体総括 櫻井教授】

最後に、櫻井教授より総括が行われた。

- ①地域の資源を活かす。地域の課題が見えなければ地域づくりは進まない。地域の資源と課題をいかに結び付けるかが大切。
- ②人びとの活躍と関係の広がりをつくる。多様な人々の活躍の場づくりが必要。自治会の枠をどう超えていくのが課題になる。
- ③公民館には地域内外の人材の発掘や、NPO や大学などとの連携できる可能性がある。社会教

育の機能を発揮させることで地域は活性化するのではないかと。

ゲストのお二人のお話しを通して、地域の力を活かしながらネットワークを拡大させる、コーディネーターとしてのあり方を示していただいた。

参加者の声

- 港川自治会の取組は、多くの学びになった。
- 課題は多いほうがよいという考え方は、新しい考え方だと思った。捉え方次第では、見方が全く違うものになる。
- 地域の資源を活かした、地域づくりの実例を聞くことができた。